

市議会が市長辞職勧告決議

上越市議会は19日、中川幹太市長に対して、「(不適切発言をみる)と」本質的に偏見や差別意識を持っているのではないかとさえ感じる。市政の混乱と市民の信頼を失墜させたことに対する政治的、道義的責任はまぬがれない。速やかに職を辞することを勧告する」という決議を行いました。これには会派みらいの4議員と公明党の2議員が反対しましたが、他はすべて賛成でした。市長に対する辞職勧告決議は上越市議会史上初のことです。

中川市長は6月議会一般質問で、市内の大手化学メーカーについて、「研究開発以外は工場での勤務だ。基本的には高校を卒業したレベルの皆さんから働いていただくことになるので、頭のいい方だけ来るわけではない」と高卒者を差別する発言をし、全国的にも大問題となりました。この日は、中川市長のこの不適

切発言に関して、「自らの強く戒めるためとして」市長の給料の7月から11月までの5か月分を全額カットする条例と関連の補正予算を提案しました。

これらの議案については総括質疑に7議員が次々と登壇し、「給料カットで区切りとするのか」「人の心の痛みをわかってるのか。多くの人が辞職すべきだと言っている。次はない。これらの声にどう応えるか」「お金の問題で解決できるものではない。辞職の決断はなかったのか」などと追及しました。これにたいして市長は、「市民の声は重大なことと重く受け止めている。再び不適切な発言をしないよう強い決意で臨む」「(辞職ではなく)一つひとつ丁寧に公約を実行する(ことで責任を果たしていきたい)」などと答えていました。

議案審査は総務常任委員会で行い

ました。審査にあたっては市長の出席を求めて審査しました。

私はトップに質問に立ち、「これまで何回不適切発言をしてきたか」「不適切な発言は専門家のアドバイスを受けて表現の仕方を改善すれば済む話ではない。市長の教育や学歴などについての考えが根っこにある。議案を提出する前にこういう議論はしてこなかったのか」「本会議では、場合によっては辞職もありうる」と聴こえた。こういう状況になれば、出直して(辞職して)もう一度頑張るといふことになるのか」などと追及しました。これにたいして、「(不適切発言は)特に大きかったものとしては、今のところ10件程度はある」「学歴差別などの意識はない。これから皆さんの気持ちを汲み取りながら発言するよう、気をつけて取り組んでいきたい」「不適切発言については、信頼回復に努めていく努力をし続けていく」などと答えました。委員会での採決では、全会一致で否決でした。

市長は、提出議案が本会議でも全会一致で否決となり、辞職勧告決議も圧倒的多数で可決されたことで、自らの進退をどうするかが問われます。報道関係者に対しては、「少し時間をいただき、後日、皆さんに伝えたい」と述べたとあります。世論は辞職すべきだが圧倒的です。速やかに辞職を決断し、出直してほしいと思います。



【アメリカホド】マメ科のつる性の多年草。別名アピオス。原産はアメリカ大陸東部。花期は夏。花の外側は緑白色、内側は紫褐色です。わが家の庭でこの花を発見しました。たぶん、かつて母が作った名残だと思います。花言葉は「幸せが飛んでくる」。写真は7月15日、吉川区代石で撮影しました。



コウノトリの幼鳥たちが巣の近くの農道に4羽そろっていました。4羽そろって、ホッとします。(23日)



20日は吉川テラスでした。地域内外の人と交流し、楽しむ歌や踊りもあって、市政のこともたっぷり話げできました。

はしづめ法一の活動レポート

No.2165 2024.7.28
 発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
 Tel 025-548-3628
 通じないときは 090-5392-1961
 E-mail hasiznysg_0808@yahoo.co.jp
 URL <https://www.hose1.jp/>



ブログ
 「ホーセの見
 てある記」は
 ← こちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第八一二回

ユスラウメ

もう二ヶ月くらい前のことです。柿崎区の海岸部に住むKさんが、ゆったりとした口調で「うちにある木、何の木だか見てもうえませんか」と電話をくださったのは……。

電話の様子からは急ぎの依頼だとは思えませんでしたが、Kさん宅のそばの道路は毎週のように通る道でしたので、すぐには出かけずにいました。ところが、その後、数回、Kさん宅近くの道を通ったにもかかわらず、「あ、さーさ。また、通り越しちゃった」と寄りすぎしまいました。

そうこうしているうちに時はあっという間に流れていきます。これではいけないと思い、六月も下旬になって、こちらからKさんに電話をかけ、確認を依頼された木を見に出かけました。

案内していただいた木は、大通りからすぐそばのところにありました。木の高さは一畝五〇センチほどです。小さな葉がたくさんついていて、そこに隠れるようにして直径一センチほどの小さな実がついていました。実は熟して赤くなっているものがほとんどでしたが、まだ緑色のものもありました。

それらのうち一個だけ、もがせてもらい、口に入れてみました。味は悪くはありません。そうですね、昔、「さだんきょ」と呼んでいたスモモの味に似た感じでした。数十年前なら、子どもたちが競い合ってもいだったことと思います。

私にとって、この木も実も初めて出合ったものでした。でも、「スモモの仲間て小さな実」を手掛かりにインターネットで調べたところ、じきに名前が分かりました。バラ科の「ユスラウメ」。漢字で「梅桃」あるいは「山桜桃」と書く落葉低木だったのです。四月には桜のような形の白色または淡紅色の花を咲かせていたはずでした。Kさんに、「ユスラウメという名前でした」と伝えると、ようやく疑問が解けたと

いった感じで、とても喜んでくださいました。私もホッとしていました。

それにしても、この木のことをもっと知りたいと電話をかけて来られたKさん、どんな事情があるのかと気になりました。Kさんに事情を訊いて、「やはり、そうだったのか」と思いました。五年ほど前に病気で亡くなられたお連れ合いとの思い出の木だったのです。

その思い出とは数年前、長野県は戸隠へそばを食べに向かったときのことです、目的地に行く途中、一畝ほどの高さの木に咲いていたきれいな花が二人の目に入りました。それがこのユスラウメだったのです。

花が咲いていたとのことですから、おそらく四月だったのでしょうね。あまりにもきれいだっただけで、Kさんは三〇センチほどの「苗木」を入手し、自宅の庭の一角に植えました。ところが、その後、木が生長して二畝ほどになったものの、そばのアジサイの方が存在感があったせい、すっかり忘れていたというのです。

気づいたのは今年になってからです。木が一段と大きくなり、白い花を咲かせていたのです。私が木の様子を見に行ったときにはすでに花の時期は終わって、小さな実が熟し始めていました。Kさんは、木の名前がわかってから、小さな実の付いた小枝を仏壇にあげ、お連れ合いに、「おれとおまんの見だよ」と言って声をかけたとのことでした。

お連れ合いは吉川区の出身で、近くのKさんの所に嫁がれていました。まだ七十代の若さで亡くなったといえます。生きておられれば、今年がちょうど八〇歳だとか。長年、直江津の大きな会社で働き、家のこととお連れ合いに任せて頑張ってきたKさん、お連れ合いとの思い出の一つが蘇ってうれしかったのでしょう。八四歳の顔はやさしいっぱいでした。

市長の不適切発言などで意見次々

上越市議会主催の「ご意見を聴く会」が21日に大潟コミプラで、22日は浦川原コミプラで行われました。

このうち大潟会場では、近藤副議長の議会報告の後、参加者は3つのグループに分かれました。私は2つのグループをはしごしながら、皆さんのご意見をお聴きしました。皆さんからは、「6月議会の市長に対する問責決議案は否決だったが、臨時議会で可決されたのはなぜか」「希望館などの公共施設はトイレの様式化をすすめてほ

しい。金がないなら順位付けしてでもやるべき」「地域独自の予算事業はもっと使いやすくすべきだ」などの意見、質問が出されていました。

浦川原会場では、「国の定額減税などはわかりにくい。お金を出したりもらったり、もっと単純にできないものか」「田んぼの干ばつ被害、その後の経過もよく見て対応してほしい」「高齢者が住みやすくなるような対策を」などの意見が出ていました。イラストは大潟会場の様子です。



上越地域各消防署における 空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016～0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	7月17日(水)	7月24日(水)
上越南消防署	0.057	0.053
上越北消防署	0.047	0.043
新井消防署	0.050	0.050
頸北消防署	0.050	0.053
頸南消防署	0.067	0.067
東頸消防署	0.043	0.040
名立分遣所	0.053	0.047
高士分遣所	0.050	0.053